

株主の皆様へ

第44期事業報告書

平成17年1月1日～平成17年12月31日



豊平館(札幌市)



北海道コカ・コーラボトリング株式会社

Hokkaido Coca-Cola Bottling

目次 / CONTENTS

株 主 の 皆 様 へ	1
経 営 の 方 針	2
営 業 の 概 況	3
連 結 業 績 の 推 移	4
業 績 の 推 移	5
ト ピ ッ ク ス	6
企業ブランディング活動	8
連 結 財 務 諸 表	12
財 務 諸 表	14
株 式 と 株 主 の 概 要	16
グ ル ー プ 会 社 の 概 要	18
会 社 の 概 要	19

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また日頃は格別のご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

ここに、第44期の当社グループの営業概況につきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油価格の高騰とそれともなう素材価格の上昇などの影響がりましたが、企業収益の改善や設備投資の増加に支えられ、景気は緩やかな回復が続きました。

清涼飲料業界では、新製品を中心とした販売競争の激化や、コンビニエンスストアにも低価格販売が波及したことにより、収益面で大きな影響を受けました。とりわけ北海道では、個人消費や雇用情勢に回復の兆しが見られず、既存大型小売店の販売額が40数ヵ月連続前年割れとなるなど、依然として厳しい市場環境が続きました。

このような状況のなかで、当社グループは中期経営計画「Rebirth 2006」に基づき、営業基盤の強化、企業体質の強化、グループ連結経営の合理化にグループ一丸となって取り組みました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、販売数量の伸び悩みや競合他社との競争激化による販売促進費の増加などにより、売上高は764億5千1百万円(前年同期比0.4%減)、営業利益は2億5千3百万円(前年同期比81.8%減)、経常利益は1億5千6百万円(前年同期比88.0%減)となりました。なお、保有土地や投資有価証券の売却など12億2千2百万円を特別利益に計上しましたが、退職給付会計基準変更時差異の償却額9億4千8百万円(当期で償却終了)など特別損失として合計13億1千5百万円を計上した結果、税金等調整前当期純利益は6千2百万円、法人税等調整額などを控除した当期純利益は1億1千1百万円(前年同期は13億4千6百万円の当期純損失)となりました。

今後の見通しについては、雇用情勢や原油価格の動向及び公共事業予算の減額などの不安材料もあり、北海道内の景気が本格的な回復に至るには時間を要するものと思われま。

清涼飲料業界においては、企業間の販売競争が熾烈さを増すなか、需要の伸び悩みにより、引き続き厳しい経営環境が予想されます。

本年は、中期経営計画「Rebirth 2006」の締めくくりの年でありますので、経営環境の変化にあわせて、これまで以上に地域との密着性を強め、成果を挙げるよう計画を実行しています。また、「地域から信頼され、認められる企業」を目指し、「変化への挑戦～北の大地とともに～」をスローガンとする新中期経営計画をスタートさせ、サービスマネジメントや企業ブランディング活動を推進し、選択と集中による投資効率の改善をはかり、業績と企業価値の向上につとめてまいります。

株主の皆様のみならずのご健勝をお祈り申し上げます。

平成18年3月

取締役社長

北島義俊



1. 経営の基本方針

当社及びグループ各社は、清涼飲料事業を中心に、「生活者やパートナーにさわやかさと潤いを提供する」、「生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献する」、「変革にチャレンジし、活力ある創発的な会社をつくる」ことを経営の基本方針としています。

「創発」とは、個々が刺激し合うことによって新しい価値を生み出していくなかで、それが全体に作用して、さらに個々を高めていくという状態を意味します。

そして、いままで以上に、コカ・コーラビジネスの基本に立ち返り、社会の変化に対応した企業活動を展開するとともに、グループ各社の総合力を発揮して、将来に向けて安定的な成長を実現していきたいと考えています。

2. 会社の利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策と位置づけています。利益の配分については、株主の皆様へ安定配当を行なうことを基本とし、業績と配当性向を勘案して実行していきます。また、将来の事業展開に備えて、内部留保による財務体質の充実につとめ、経営基盤の強化をはかります。

内部留保金については、財務体質の強化とあわせ、今後の設備投資等への必要資金及び経済情勢の変化に対応した機動的な自己株式の取得にかかわる資金に充当いたします。

なお、当期の配当金については、1株につき9円(普通配当7円50銭、特別配当1円50銭)といたしました。これにより中間配当金を加えました通期の配当金は、1株につき18円となりました。

3. 中長期的な会社の経営戦略

清涼飲料業界を取り巻く事業環境は、飲料需要が低迷し、一段と厳しさを増しています。

こうした状況のなか、当社及びグループ各社は、抜本的な構造改革に向けて、2004年から中期経営計画「Rebirth 2006」を展開し、これまでの2年間で、企業基盤の強化と企業体質の革新、グループ連結経営の確立、環境問題への具体的な取り組みをしてきました。

本年は、中期経営計画「Rebirth 2006」の締めくくりの年でありますので、経営環境の変化にあわせて、これまで以上に地域との密着性を強め、成果を挙げるよう計画を実行しています。また、「地域から信頼され、認められる企業」を目指し、「変化への挑戦～北の大地とともに～」をスローガンとする新中期経営計画をスタートさせ、サービスマネジメントや企業ブランディング活動を推進し、選択と集中による投資効率の改善をはかり、業績と企業価値の向上につとめていきます。

営業面では、2005年3月に伸長著しい緑茶飲料市場に「一(はじめ)」を、動いて燃やすカロリーオフのダイエットサポート飲料「アクエリアス アクティブダイエット」を5月に投入し、シェアの拡大を目指しました。最盛期の夏のシーズンには、新キャラクター「KUMA(クーマ)」を採用し、親近感、共感を追求したサマープロモーションを実施しました。9月には「ジョージア リステージ」と銘打ったジョージアブランドのリニューアルとともに、新グラフィックの導入、「歌ジャケ」プレゼントなどの広告キャンペーンを行ない、幅広い顧客層にブランド価値を訴求しました。当期の主な新商品として、上記のほか炭酸飲料に「アンバサ サワーホワイト」、「コカ・コーラ レモン」、果汁飲料に「クー アップルドீぞ」、「クー オレンジドீぞ」、健康志向飲料に「大豆ノススメ」、コーヒー飲料に「ジョージア エスプレッソカフェ」、「ジョージア グランデ」、ティー飲料に「七色壺茶」などを発売いたしました。

当社グループの企業体質の強化策として、全国規模で調達・製造・物流の一元化をはかるコカ・コーラナショナルビバレッジ株式会社が2005年1月より本格稼働し、自社製造から受託加工に変更いたしました。また、3月に札幌工場をリニューアルし、製造ラインの集約化による生産性の向上と環境負荷の低減を実現するとともに、6月にはグループ各社を含めた札幌圏内の拠点再編により、コスト削減や品質向上をはかり、グループ連結経営の効率化につとめました。さらに、地域に信頼される企業を目指して、「人と人をうるおす Coca-Cola」をスローガンにする企業ブランディング活動を8月にスタートさせるとともに、企業の社会的責任(CSR)を経営の重要課題のひとつとして掲げ、法令や企業倫理の遵守、環境保全活動、社会貢献活動などの取り組みを推進するための組織を新たに設けました。

地域との結びつきを深める活動として、屋外の自動販売機への住所表示ステッカーの貼付や観光地図等の掲出を実施したほか、環境に配慮したノンフロン自動販売機の設置を推進しました。また、オフィシャルスポンサーとして北海道のJリーグチーム「コンサドーレ札幌」や北海道を代表する祭り「YOSAKOIソーラン祭り」を地域の皆様とともに応援しています。

環境保全活動については、コカ・コーラグループ独自の環境マネジメントシステムである「eKOシステム」を推進し、廃棄物の削減と再資源化、省エネルギー・省資源による環境負荷の低減、グリーン購入の促進、地域社会の環境美化活動などにつとめました。

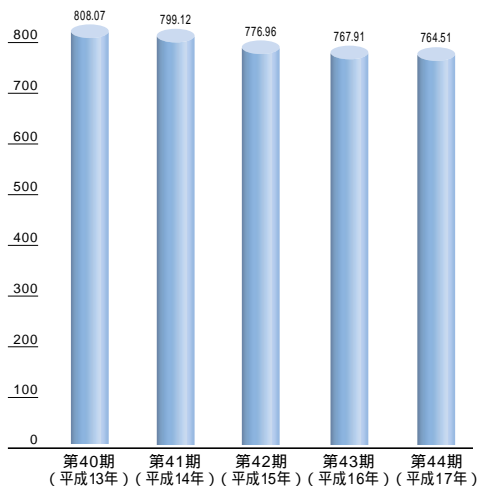
設備投資については、総額41億4千5百万円で、生産設備の集約及び合理化、自動販売機等の販売機材の増設及び更新などがあり、全額自己資金でまかしました。

なお、品質管理と顧客サービスの一層の強化をはかるため、当社からの業務委託によりコカ・コーラ社製品の製造を行なう「北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社」を設立し、本年4月より稼働を開始することいたしました。

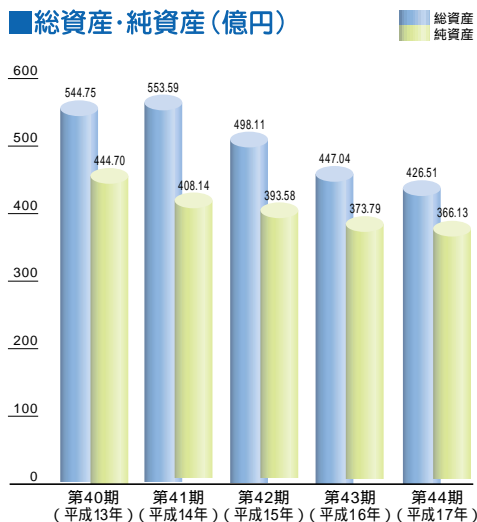
連結業績の推移

HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

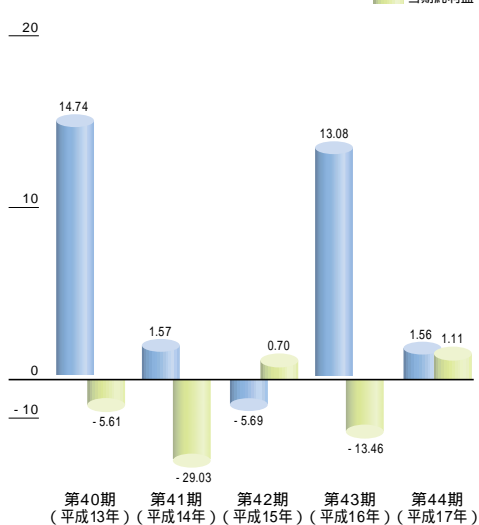
■売上高(億円)



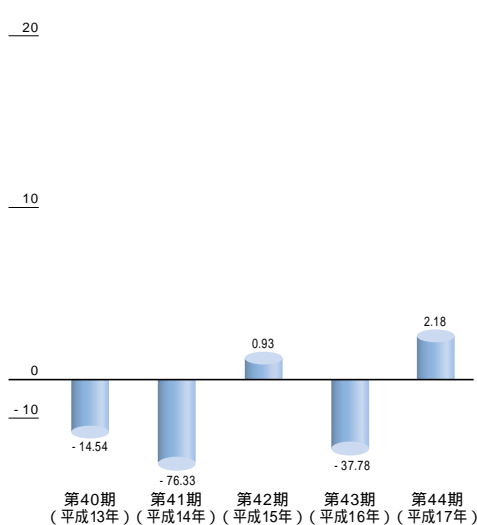
■総資産・純資産(億円)



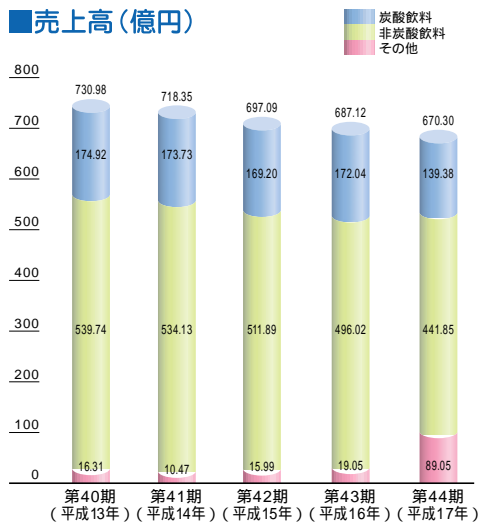
■経常利益・当期純利益(億円)



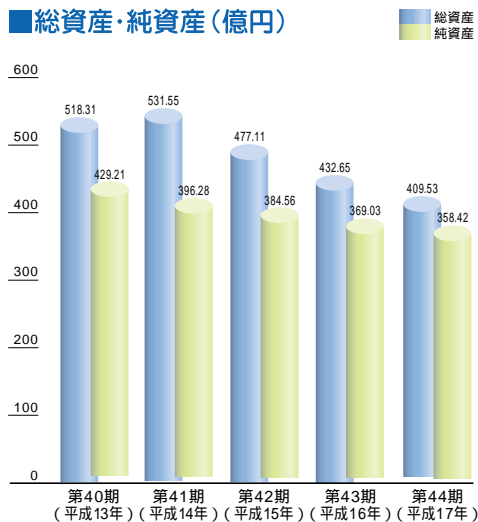
■1株当たり当期純利益(円)



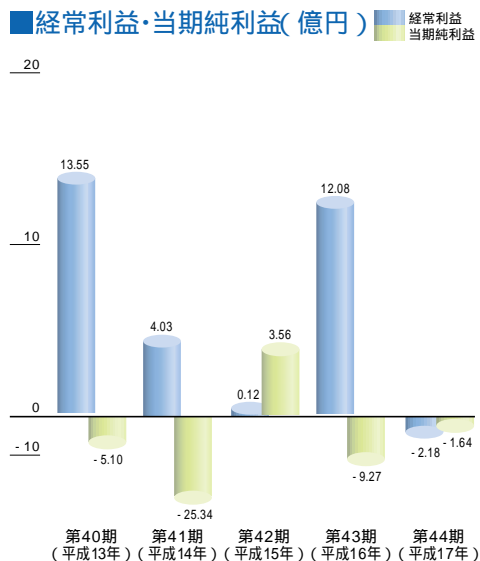
■売上高(億円)



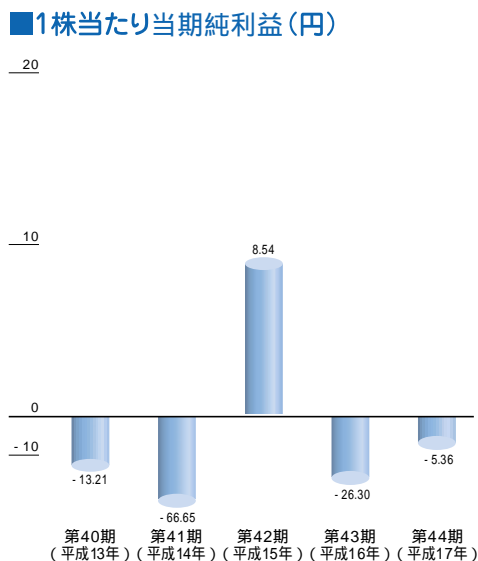
■総資産・純資産(億円)



■経常利益・当期純利益(億円)



■1株当たり当期純利益(円)



主なキャンペーン



2月7日～11月30日
「クーのたのしいいちにち」
キャンペーン



3月28日～5月31日
「Coke Style 毎日アタル!毎日変わる!」キャンペーン



2月21日～5月7日
「一(はじめ)の旅」プロモーション



5月1日～6月30日
「アクエリアスが贈る 体感せよ、
FIFAワールドカップ!」キャンペーン

2005年

1月

2月

3月

4月

5月

主な新商品



1月7日発売
ジョージア エスプレッソカフェ



3月7日発売
一(はじめ)



5月9日発売
アクエリアス アクティブダイエット



2月7日発売
クー アップルピーチ・クー オレンジピーチ



3月21日発売
アンバサ サワーホワイト



5月30日発売
コカ・コーラ レモン



5月30日～7月11日
「GO!GO!LEMON!」キャンペーン



11月30日～12月31日
「コカ・コーラオリジナルディズニー時計が当たる」
キャンペーン



7月1日～8月31日
「この夏、KUMAあたります」
プロモーション



10月1日～11月30日
「ジョージアオリジナル歌ジャケ」プロモーション

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月



6月6日発売
七色亜茶



9月5日リニューアル
ジョージア各種



6月27日発売
大豆ノスメ



9月5日発売
ジョージア グランデ



企業ブランディング活動とは？

コカ・コーラシステムが全体でどのような企業になりたいかを示し、それに沿ってコミュニケーションから日々の営業活動までを一貫して行ない、企業としての価値と信頼感を高める活動のことです。



自動販売機による活動



「防犯ポスター」

当社では誰もが身近に利用する自動販売機を利用し「防犯を呼びかけるポスター」を貼付し、地域の方々を安全を呼びかけております。そのような取り組みが評価され、当社八雲営業所は八雲町防犯協会と八雲警察署より表彰を受けました。



「住所表示ステッカー」

屋外自動販売機に住所を表示することで、通行人が110番・119番通報する際の場所の特定や道に迷った時の場所確認に役立ててもらおうとする試みです。

地域との結びつきを深める活動



「さっぽろ雪まつり」

北海道の冬のイベントを代表する「さっぽろ雪まつり」にて、会場内販売ブースの設置、広告、サンプリングなど、様々な場面で協力いたしました。



「YOSAKOIソーラン祭り」

「第14回YOSAKOIソーラン祭り」には「コカ・コーラ札幌国際大学」チームとして参加した他、会場内販売ブースの設置、広告など、YOSAKOIソーラン祭りのオフィシャルスポンサーとして、様々な場面で協力いたしました。



「コンサドーレ札幌」

株式会社北海道フットボールクラブが運営する「コンサドーレ札幌」を支援し、コンサドーレ自動販売機の設置や応援メッセージ入り商品を開発し販売いたしました。



© 2005 H.F.C.



環境保全活動



「環境広場さっぽろ2005」

当社の環境保全活動を紹介する一方、ここでいただいた貴重なご意見を今後の活動に活かしてまいります。



「事業所周辺の環境美化活動」

安全衛生活動の一環として、社員によるクリーン活動を実施しております。



「ぼくとわたしのエコロジー『大好きな風景』作品展」

青少年の環境への関心を高める目的で、毎年開催される「ぼくとわたしのエコロジー『大好きな風景』作品展」を支援しております。



「企業ブランディング新聞広告 宣言編」

2005年8月1日に新聞広告を掲載するとともに、WEBサイトの公開をスタートいたしました。



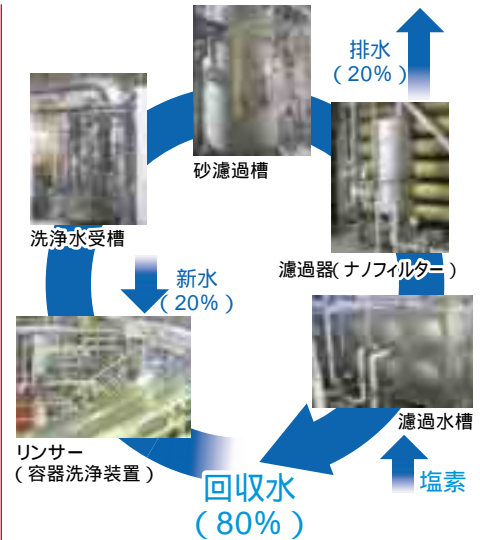
「かんきょうみらいカップ2005」

小学生がサッカーを通じて環境問題を考える催し「かんきょうみらいカップ2005」に賛同し、出場者である小学生が当社札幌工場を訪れ、当社の環境への取り組みについて学習をしました。

札幌工場での取組み



「企業ブランディング新聞広告 約束編」
2006年1月16日に新聞広告及びWEBサイトにてコカ・コーラ社員としての10の約束を宣言いたしました。



「節水設備」

当社札幌工場では容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水などを再利用し、約2700トン/日(20時間稼働時)の節水をしております。



「天然ガス使用ボイラー」

地球温暖化防止などの当社の環境対策の一環として、ボイラー燃料をA重油から硫黄分などの不純物を含まないクリーンな燃料「天然ガス」に切り替えました。

連結財務諸表

HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成17年12月31日現在)	前 期 (平成16年12月31日現在)	科 目	当 期 (平成17年12月31日現在)	前 期 (平成16年12月31日現在)
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流 動 資 産	14,187	16,574	流 動 負 債	4,735	6,570
現金及び預金	5,227	4,574	買 掛 金	640	2,522
受取手形及び売掛金	5,277	5,113	未 払 法 人 税 等	106	65
有 価 証 券	-	11	その他の流動負債	3,988	3,981
た な 卸 資 産	2,285	5,046	固 定 負 債	1,302	755
繰 延 税 金 資 産	28	59	長期預り保証金	13	13
その他の流動資産	1,386	1,793	退職給付引当金	1,204	712
貸 倒 引 当 金	18	23	繰 延 税 金 負 債	85	29
固 定 資 産	28,464	28,129	負 債 合 計	6,037	7,325
有形固定資産	24,592	24,648	(少 数 株 主 持 分)		
建物及び構築物	8,430	7,707	少 数 株 主 持 分	-	-
機械装置及び運搬具	4,817	4,778	(資 本 の 部)		
販 売 機 器	4,285	4,613	資 本 金	2,935	2,935
工具器具及び備品	336	352	資 本 剰 余 金	4,924	4,924
土 地	6,723	6,858	利 益 剰 余 金	29,665	30,247
建 設 仮 勘 定	-	337	株 式 等 評 価 差 額 金	25	155
無形固定資産	467	542	自 己 株 式	886	882
ソフトウェア	340	414	資 本 合 計	36,613	37,379
その他の無形固定資産	126	127			
投 資 其 他 の 資 産	3,405	2,939	負 債、少数株主持分及び資本合計	42,651	44,704
投資有価証券	994	1,572			
長期貸付金	93	107			
繰 延 税 金 資 産	624	323			
その他の投資等	1,833	1,111			
貸 倒 引 当 金	142	174			
資 産 合 計	42,651	44,704			

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目		当 期	前 期
		(平成17年1月1日から 平成17年12月31日まで)	(平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで)
経常損益の部	営業収益	76,451	76,791
	売上高	76,451	76,791
	営業費用	76,198	75,399
	売上原価	47,456	45,071
	販売費及び一般管理費	28,742	30,328
	営業利益	253	1,391
	営業外収益	74	124
	受取利息及び配当金	11	14
	その他の営業外収益	62	110
	営業外費用	170	207
固定資産除却損	108	137	
その他の営業外費用	62	70	
経常利益	156	1,308	
特別損益の部	特別利益	1,222	4,403
	固定資産売却益	698	
	投資有価証券売却益	391	
	退職給付引当金取崩益	-	4,343
	生産資産廃棄費用補償金	120	
	貸倒引当金戻入益	2	1
	その他の特別利益	9	58
	特別損失	1,315	5,660
	固定資産売却損	-	11
	固定資産除却損	94	568
	減損損失	64	
	早期退職加算金	-	3,057
	退職給付会計基準変更時差異償却額	948	1,047
	退職一時金	-	495
	営業権一括償却額	-	163
新紙幣対応費用	194		
その他の特別損失	13	315	
税金等調整前当期純利益	62	50	
法人税、住民税及び事業税	44	48	
法人税等調整額	92	1,349	
当期純利益(は純損失)	111	1,346	

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目		当 期	前 期
		(平成17年1月1日から 平成17年12月31日まで)	(平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	4,924	4,924	
資本剰余金増加高	0	0	
自己株式処分差益	0	0	
資本剰余金期末残高	4,924	4,924	
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	30,247	32,287	
利益剰余金増加高	111		
当期純利益	111		
利益剰余金減少高	692	2,040	
配当金	658	658	
取締役賞与金	34	35	
当期純損失	-	1,346	
利益剰余金期末残高	29,665	30,247	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目		当 期	前 期
		(平成17年1月1日から 平成17年12月31日まで)	(平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで)
Ⅰ. 営業活動によるキャッシュ・フロー		5,218	1,040
Ⅱ. 投資活動によるキャッシュ・フロー		3,883	2,592
Ⅲ. 財務活動によるキャッシュ・フロー		661	667
Ⅳ. 現金及び現金同等物の増減額(は減少)		673	2,218
Ⅴ. 現金及び現金同等物の期首残高		4,534	6,753
Ⅵ. 現金及び現金同等物の期末残高		5,207	4,534

財務諸表

HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	(平成17年12月31日現在)	(平成16年12月31日現在)		(平成17年12月31日現在)	(平成16年12月31日現在)
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
流動資産	12,466	14,523	流動負債	4,120	5,832
現金及び預金	4,941	3,939	買掛金	449	2,350
受取手形	1	-	未払金	1,590	1,534
売掛金	4,473	4,412	未払費用	680	618
有価証券	-	11	未払法人税等	89	52
商品	1,721	1,966	預り金	880	633
原材料	-	2,149	前受収益	6	7
貯蔵品	26	52	その他の流動負債	423	635
前払費用	163	110	固定負債	990	529
繰延税金資産	25	34	長期預り保証金	4	4
未収入金	1,101	1,515	退職給付引当金	986	525
その他の流動資産	31	48			
貸倒引当金	18	24	負債合計	5,110	6,362
固定資産	28,486	28,742	(資 本 の 部)		
有形固定資産	23,686	23,751	資本金	2,935	2,935
建物	7,602	6,863	資本剰余金	4,924	4,924
構築物	537	551	資本準備金	4,924	4,924
機械及び装置	4,654	4,636	その他資本剰余金	0	0
車両及び運搬具	2	3	自己株式処分差益	0	0
販売機器	4,225	4,561	利益剰余金	28,917	29,774
工具器具及び備品	131	129	利益準備金	733	733
土地	6,532	6,668	任意積立金	27,095	28,602
建設仮勘定	-	337	固定資産圧縮積立金	24	31
無形固定資産	451	524	別途積立金	27,070	28,570
ソフトウェア	328	400	当期末処分利益	1,087	438
その他の無形固定資産	123	123	株式等評価差額金	48	151
投資その他の資産	4,349	4,466	自己株式	886	882
投資有価証券	946	1,554	資本合計	35,842	36,903
子会社株式	240	240	負債及び資本合計	40,953	43,265
出資金	0	0			
長期貸付金	93	107			
子会社長期貸付金	2,453	2,619			
破産債権、更生債権その他	46	74			
これらに準ずる債権	317	388			
長期前払費用	1,081	992			
繰延税金資産	618	222			
その他の投資等	1,448	1,732			
貸倒引当金					
資産合計	40,953	43,265			

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科 目		当 期	前 期	
		(平成17年1月1日から平成17年12月31日まで)	(平成16年1月1日から平成16年12月31日まで)	
経常損益の部	営業収益	67,030	68,712	
	売上高	67,030	68,712	
	営業費用	67,199	67,471	
	売上原価	41,266	40,153	
	販売費及び一般管理費	25,933	27,317	
	営業利益(は損失)	169	1,241	
	営業外損益の部	営業外収益	212	285
		受取利息及び配当金	30	64
		その他の営業外収益	181	220
		営業外費用	260	318
固定資産除却損 その他の営業外費用		101 158	126 192	
経常利益(は損失)		218	1,208	
特別損益の部	特別利益	1,420	4,148	
	固定資産売却益	654	-	
	投資有価証券売却益	391	-	
	退職給付引当金取崩益	-	4,126	
	生産資産廃棄費用補償金	120	-	
	貸倒引当金戻入益	253	-	
	その他の特別利益	-	21	
	特別損失	1,287	5,446	
	固定資産売却損	-	11	
	固定資産除却損	92	559	
	減損損失	64	-	
	早期退職加算金	-	1,529	
	投資有価証券評価損	0	9	
	退職給付会計基準変更時差異償却額	928	1,006	
	子会社整理損失	-	994	
	新紙幣対応費用	198	142	
	貸倒引当金繰入額	-	1,063	
その他の特別損失	4	131		
税引前当期純損失	85	90		
法人税、住民税及び事業税	23	24		
法人税等調整額	55	813		
当期純損失	164	927		
前期繰越利益	1,581	1,694		
中間配当額	329	329		
当期末処分利益	1,087	438		

(注)記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位：百万円)

摘 要	金額
当期末処分利益	1,087
任意積立金取崩高	
固定資産圧縮積立金取崩高	1
別途積立金取崩高	1,000
合計	2,089
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	329
(普通配当 1株につき 7円50銭) (特別配当 1株につき 1円50銭)	
取締役賞与金	31
次期繰越利益	1,728

- (注)1.記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
 2.固定資産圧縮積立金取崩高は租税特別措置法の規定に基づくものであります。
 3.平成17年9月8日に329百万円(普通配当1株につき7円50銭、特別配当1株につき1円50銭)の中間配当を実施いたしました。
 4.利益配当金には、自己株式1,475,060株の配当金を除いております。

株式と株主の概要

HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

(平成17年12月31日現在)

■株式の状況

発行する株式の総数	118,514,000株
発行済株式の総数	38,034,493株
期末株主数	4,118名

■自己株式の取得、処分等及び保有

取得株式

普通株式 8,852株

取得価額の総額 6,567千円

処分株式

普通株式 3,365株

処分価額の総額 2,604千円

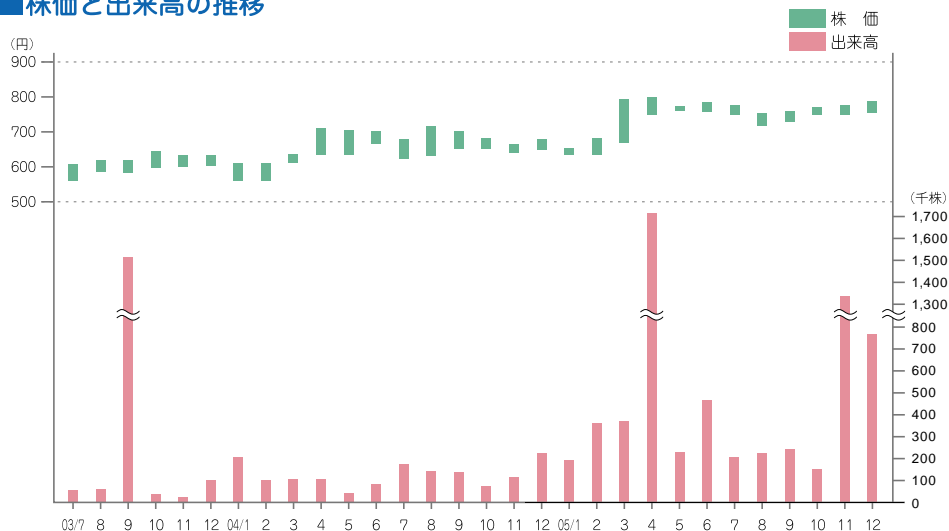
失効手続をした株式

当期中に失効手続をした株式はありません。

④決算期における保有株式

普通株式 1,475,060株

■株価と出来高の推移



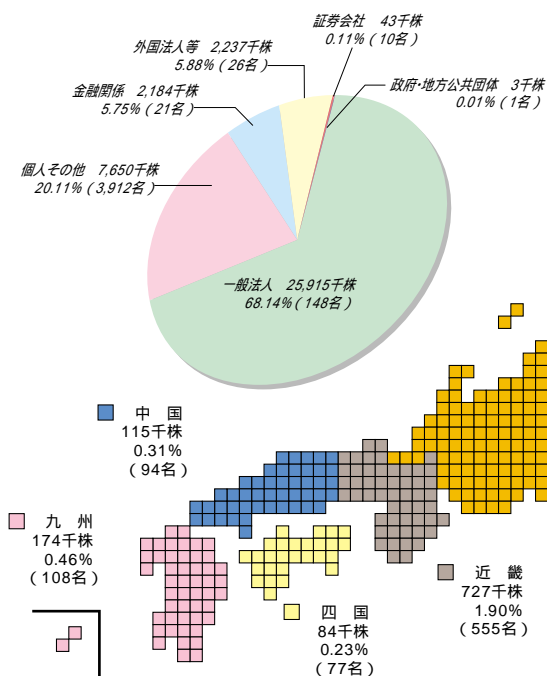
■大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)	株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
大日本印刷株式会社	19,398	51.00	北島義俊	460	1.20
株式会社栗林商会	3,028	7.96	シーピーエヌワイドエフエイインター ナショナルキャップリビューポフォリオ	398	1.04
伊藤組土建株式会社	780	2.05	株式会社北洋銀行	278	0.73
ピービーエイトリミテッド	717	1.88	株式会社みずほコーポレート銀行	277	0.72
バンクオブバーミューダリミテッド	608	1.59	東京海上日動火災保険株式会社	277	0.72

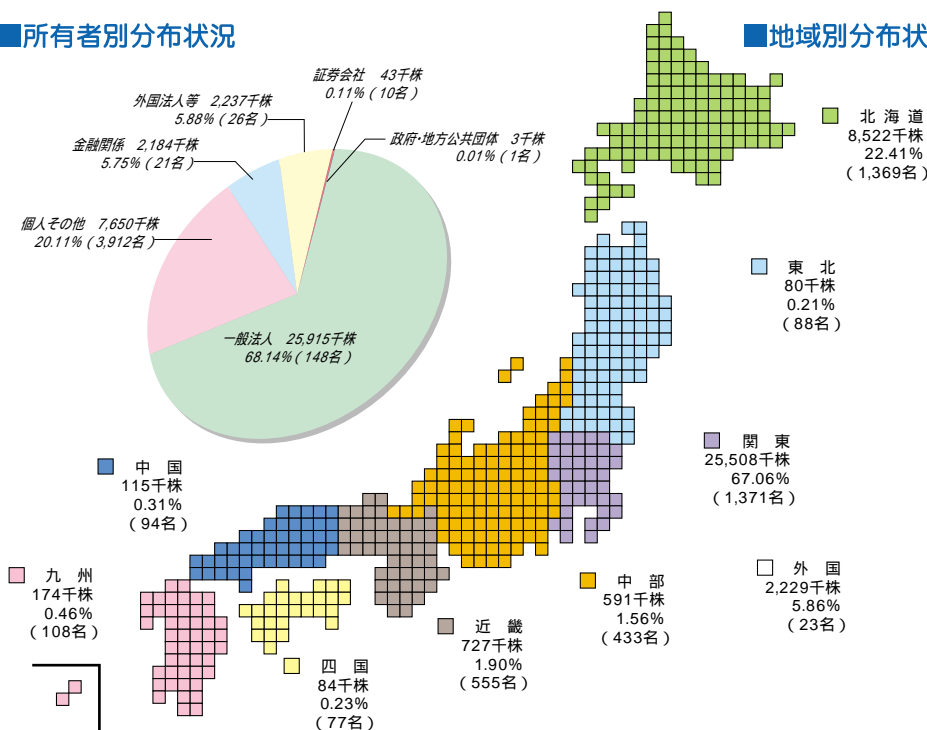
(注) 1. 当社は自己株式1,475,060株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

2. 当社は、株式会社北洋銀行の完全親会社である株式会社札幌北洋ホールディングスの株式0.50株(出資比率0.0001%)を保有しております。

■所有者別分布状況



■地域別分布状況





幸楽輸送株式会社

設立 1969年1月23日
代表者 取締役社長 鈴木 英昭
資本金 20,000,000円
本社所在地 札幌市清田区清田一条一丁目1番33号
事業内容 コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業



北海道飲料株式会社

設立 1982年2月25日
代表者 取締役社長 浦本 富夫
資本金 20,000,000円
本社所在地 登別市富浦町一丁目57番地1
事業内容 ミネラルウォーター他清涼飲料の製造



北海道サービス株式会社

設立 1985年1月5日
代表者 取締役社長 宮下 征治
資本金 70,000,000円
本社所在地 札幌市清田区清田一条一丁目3番10号
事業内容 一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・貸貸、書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業



北海道ベンディング株式会社

設立 1989年1月5日
代表者 取締役社長 穴戸 章
資本金 10,000,000円
本社所在地 札幌市清田区清田一条一丁目3番10号
事業内容 自動販売機のオペレーション業務



北海道マシンメンテナンス株式会社

設立 2000年10月18日
代表者 取締役社長 浦本 富夫
資本金 50,000,000円
本社所在地 札幌市清田区北野二条三丁目12番35号
事業内容 各種自動販売機の修理、設置及び撤去



北海道ビバレッジサービス株式会社

設立 2004年5月11日
代表者 取締役社長 本間 良一
資本金 10,000,000円
本社所在地 札幌市白石区米里四条二丁目1番20号
事業内容 自動販売機による飲食品等の販売



北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社

設立 2006年3月3日
代表者 取締役社長 佐々木 康行
資本金 50,000,000円
本社所在地 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
事業内容 清涼飲料水及び飲料水用容器の製造

会社の概要

HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

(平成18年3月30日現在)

■商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.	
■設立	昭和38年1月24日	
■資本金	29億3,515万4千円	
■従業員数	693名(グループ1,310名)	
■主要な事業内容	北海道を販売地域とした、清涼飲料の製造及び販売	
■事業所	本社: 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 電話 011-888-2001(総務部) ホームページアドレス http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/	
	工場: 札幌工場 (注) 本社工場は札幌工場に名称を変更いたしました。	
	支店: 道央第一支店・道央第二支店(札幌市) 道南支店(函館市) 道北支店(旭川市) 道東支店(音更町) (注) 道央支店を廃止し、道央第一支店及び道央第二支店を新設いたしました。	
	営業拠点: 札幌(3ヶ所) 小樽、余市、倶知安、千歳、岩見沢、由仁、滝川、留萌、函館、江差、八雲、室蘭登別(登別市)、苫小牧、日高(静内町)、旭川、名寄士別(士別市)、富良野、紋別、遠軽、北見、網走、稚内、帯広(音更町)、足寄、大樹、釧路、中標津、根室 (注) 札幌地区を5ヶ所から3ヶ所に集約するとともに、富川営業所、静内営業所、様似営業所を統合し、日高営業所を新設いたしました。	
■役員	代表取締役社長 北島 義俊 取締役 佐々木 康行	
	代表取締役専務 角野 中原 取締役 青木 利壽	
	代表取締役常務 松本 肇 取締役 森川 浩志	
	常務取締役 林 繁 男 常勤監査役 牛尾 正勝	
	取締役 栗林 徳光 監査役 天辰 定文	
	取締役 伊藤 義郎 監査役(社外監査役) 黒田 雄次郎	
	取締役 松原 三 男 監査役(社外監査役) 戸塚 巖 男	
	取締役 横山 英 三 監査役(社外監査役) 梅野 行 男	
■会計監査人	明治監査法人 東京都中央区八重洲一丁目3番19号	

株主メモ

決算期日	毎年12月31日(年1回)
定時株主総会	毎年3月下旬
利益配当金	決算期日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は登録された質権者にお支払いいたします。
基準日	毎年12月31日 その他必要ある場合は、取締役会の決議により予め公告して設定いたします。
中間配当株主 確定日	毎年6月30日
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部 札幌証券取引所
名義書換代理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	東京都豊島区西池袋一丁目7番7号(〒171-8508) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店 野村證券株式会社全国本支店
公告掲載新聞	日本経済新聞 なお、決算公告については当社のホームページにおいて開示しております。 (http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/ir/k_koukoku.html)
単元未満株式の 買取及び買増	単元未満株式(1株から999株まで)の買取及び買増請求は上記名義書換代理人の事務取扱場所及び取次所でお取扱いいたしております。ただし、株券保管振替制度を利用されている場合は、お取引の証券会社にお申し出ください。なお、単元未満株式の買増請求は、毎年6月中旬から6月30日まで、12月中旬から12月31日までは受付を停止させていただきます。
株主優待	毎年6月30日及び12月31日現在の1,000株以上ご所有の株主の皆様は、当社商品詰合せ(28本入り)を9月上旬及び4月上旬にお届けいたします。





北海道コカ・コーラボトリング株式会社
ホームページアドレス

<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>



この事業報告書は100%再生紙と大豆油インキを使用しております。